



2011年(平成23年) 5月17日(火)

第5814号 (購読料金 月額税込み4,300円)



◇昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
◇毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
◇発行所 東京都中央区銀座5丁目15番8号時事通信社
◇郵便番号104-8178
©時事通信社2011

目次

特集 東日本大震災 被災者が希望を
持てる施策を エコノミー症候群対
策で榛沢医師…………… 2
被災者自立へ支援を一菅野医師…………… 4
福祉用具貸与に援助計画 介護の質向
上へ義務付け一厚生労働省…………… 5
復興遅れた地域で学校再建…………… 5

特集 進む営利法人の「福祉参入」①
「90日ルール」と総量規制をめぐって6
利用者負担に上限、低所得者対策を強
化 社会保障・税改革で厚労省案…12
地域を支える(石川県)…………… 14
通所介護事業所の宿泊サービスに基準
届け出を義務付け一東京都…………… 15
進言(山梨県)…………… 15
事件・事故・裁判一品川美容外科医師
を逮捕/男児死亡、被疑者不詳で書
類送検 ほか…………… 16
ファイル一自殺者、4月は2640人/「こ
ども園」の名称使用容認 ほか…………… 18

ニュースフラッシュ
福祉・健康一地域の交流拠点整備に
一体助成/生活保護世帯の学習を
支援…………… 19
環境・ゴミ一「緑のカーテン」コンテ
スト ほか…………… 19
労働・女性一被災者雇用企業に優遇
措置…………… 20

入学と卒業

私事で恐縮だが、社会福祉法人の理事長を三月末で次の世代に渡し、自称、名誉理事長になった。初代の理事長は実父で、当時、父の病院経営を手伝っていた私が特別養護老人ホームの施設長となり、理事長に就任することになったのである。病院を譲り受けていた弟は余り経営には関心がなかったが、当時の保守的な地方では女性が組織の長に就任するという例はなく、初代理事長の死後の理事会であつたら当然、長男の弟が理事長に就任することになる。しかし、実質的には社福の運営はすでに私が行っており、私にはそれなりの夢もあつたので、生前に理事長交代をしたのである。それから半年後に、失敗ばかりする二代目理事

社会福祉法人新生会
名誉理事長・石原美智子



日本大震災の被災地になってしまった。熊坂さんの生存を確かめるのは勇気のいることだったので無事と知った時は本当にホッとした。

長の方を見ながら創設者の初代理事長は帰らぬ人となつた。そして十九年後の今年、何とか無事に次の走者にバトンを渡すことが出来た。

四月十七日の社福創立三十五周年は記念コンサートを企画した。当日は晴天に恵まれて、庭一面のチューリップも満開。デイセンターの電動舞台上では「カルテット・クオーレ」の妙なる音楽が流れ、広い庭園にいる人々にも、部屋から離れられない人の耳にも届いている。

このNHK交響楽団のメンバーを含む弦楽四重奏団との御縁を作つて下さつたのは、岩手県宮古市の前市長・熊坂義裕さんである。私たちのコンサートの前に、宮古市は今回の東

そのような中での記念コンサートである。来賓祝辞は割愛し、これからの事業の入学生である新理事長の決意と、卒業生である私からのお礼の言葉のみで、これからの宮古市との交流を誓つた。人生には様々な区切りに入学式や卒業式があり、心構えを新たにしているが、宮古市は再建に向けて入学したばかりである。前市長、現市長と賢明な市政を仕切っている宮古市は、きつと立派な成人に向けて足音高く歩み始めているはずである。

七月二十四日に今度は宮古市で開かれるコンサートに参加し、盛岡大学栄養科学部の教授となられた熊坂さんと、夢の一杯入ったランドセルをお互いに背負つて歩んで行きたい。